



謹啓 時の遷り 宜きに 向ひて

御高館 益々清祥の 正儀と

奉事 恭賀 其後ハ 存正に

内無 何れ中上 常祥と 益々

以寛 宜き 奉事 益々 一頁は

平素 以て 廿陰と 二部 雜者

仕合 宜し 何れも 宜しく

所指 導の 礼 御上 宜

却説 過般 所 瑞花の 相江

筆文 文章 卷物 特別の 思召と

以て 御惠 贈 宜し 所 厚情

宜き 所 禮中 述べ 奉り 難く

存正 上 宜し 宜し 宜し 宜し

賜はり 残只 一幅の 所 品を 小生に

所 割愛 宜し 所 高情

宜し 骨に 銘し 終生 難忘

小生 予 相江 告 宜し 所 度 年 来

心 懸 宜し 素志 と 遂 け 兼 ね 奉

忽ち 大幅 の 内 宜し 賜を 承り 宜し

夢か と ばかり 驚 喜 仕 奉 其 後

時 辰 觀 大に 樂 宜し 所 直 接

相江 老 叔 父 の 眉 目 を 仰 ぎ 心

地 球 百 歳 胸 に 湧 き 中 宜





地球(百成)胸に湧き出  
永く家の重宝とて子孫に  
お傳へ可申 謹言  
お礼者  
小生等ハ久し出羽の山里に墾居  
少く学校の方にも係致居下思

久しく上京仕舞居其内末を  
得て内地に罷出遊び 仰付  
祝く御恩情を奉謝度存居  
年末之際(過)取本の  
中上度不願拙草

仰付中上候 州、器具

大正四年  
三月十七日 田中一守  
お

### 市嶋謙吉様

内侍曹

預、甚々輕微敬地産の粗漬  
小包を本日發送 仰甚々所喜  
献上仕居 海に田舎の粗末を  
仰愧かしく存御居(と)も御笑留  
此由に在下 誠に幸甚に  
存御

時六進、空象お儀也ば  
折角御自重の程  
奉事市上居